

## （ 広がりをもせる 「なら燈花会」 ）

なら燈花会（運営：NPO 法人なら燈花会の会）は、1999 年夏に始まり、今年で 9 回目を迎え今では奈良の夏の風物詩になっている。

夏の奈良に観光客をどうしたら誘致できるかと考えた奈良青年会議所のメンバーなどの有志が、「奈良公園にあんどんのようなぼんやりとした灯りをともしたらどうか」と思案しながら始めた。

最初は、ろうそく全数が 1 日 6,000 個から始まったが、今年は 20,000 個。浮雲園地、春日野園地、浮見堂、浅芽ヶ原、奈良国立博物館、興福寺、猿沢池・五十二段、東大寺鏡池、春日大社参道、奈良県庁、奈良県文化会館と年を追う毎に会場が増えている。（奈良県庁、奈良県文化会館は県職員が担当）

今年は、8 月 5～14 日（10 日間）に開かれ、来場者は 68 万 8 千人となり、人々の心にさまざまな感動を与えた。

総数のべ 4,000 名を超すボランティアが、不燃プラスチックのカップに水をはり、ろうそくを入れて点火する。作業は、全て手作業で行う。燈花会はこれらの人達によって成り立っている。ボランティア達は、「このイベントを自分たちで作っている。出来上がった時のキレイさに感動し、参加したことに喜びがある」と感想をもらしている。

燈花会に習った催しは、富士山本宮浅間神社、宮崎青島公園、高知城、舞鶴、芦原温泉などの全国各地に広がっている。芦原温泉では、中心街に空き地ができ、夜には暗くなり観光客が夜のそぞろ歩きをしなくなっていたが、燈花を灯すことで、夜の賑わいが戻った。

来年 10 年目を迎えるにあたり、全国各地から訪れる正倉院展ファンに、アピールしようと、今年初めて正倉院展開催期間中の 11 月 9 日、10 日に「なら燈花会 in 正倉院展 2007 秋」と称して博物館の前で点灯した。

関東からの訪問客を増やそうと、来春には東京で燈花会を催すことも計画している。

また、今年 9 月 25 日には海外でも開催している。平城遷都 1300 年記念事業をはじめ地域イベントをにう人材育成をめざす「奈良 2010 年塾」の卒業生有志で結成した「平成の遣燈使実行委員会」が、奈良市の友好姉妹都市である中国西安市で燈花会を開催した。

平城京は当時の唐の都長安（現在の西安）をモデルにして建設され、昔の人々が唐の素晴らしい文化の恩恵を受けたことから、日中国交正常化 35 周年にあたる今年、奈良市と西安市の交流をさらに深めようと企画したものである。

西安城壁南門前に灯された沢山のろうそくの灯は、多くの西安市民を魅了した。（上田）



なら燈花会が正倉院展にデビュー



奈良市と西安市の交流を深める燈花会

### これからの主な催し

〔主な行事〕

- 11 月 23 日（金）勤労感謝の日

たかとり城まつり

高取城は、高取町に築かれた約 6 万 m<sup>2</sup>、周囲約 30km という日本一広大な山城。（平成 18 年 2 月「日本 100 名城」に選定）今は、石垣が

残るだけだが、往時の賑わいを偲び、城跡や城下町の旧土佐町界隈で、時代行列、火縄銃の実演、大道芸など様々なイベントが行われる。近鉄吉野線 壱阪山駅下車すぐ